故事成語 ・朝三暮四・

あらすじ 次の空欄に適語を入れて、内容を整理しなさい。

宋の国に〔①　　〕という人がいた。食糧が少なくなったので、飼っている〔②　　〕の食糧を制限しようとした。そこで、与えるどんぐりの実を、「朝に〔③　　〕、暮れに〔④　　〕にしたい。」と言うと、猿は少ないと大いに〔⑤　　〕。そこで、「朝に〔⑥　　〕、暮れに〔⑦　　〕にしたい。」と言うと、猿は腹ばいになりたいそう〔⑧　　〕。

重要語句 次の語句の読みと意味を答えなさい。ただし、読みは送り仮名も含めて現代仮名遣いで答えること。

(1) 俄（カニ）（シテ）（一二八・3）

(2) 若（ニ）（一二八・5）

重要句形 次の文を書き下し文に改めなさい。

(1) 将（ニ）レ限（ラントノ）二其食（ヲ）一。（一二八・4）

(2) 恐（ルル）二衆狙之不（ルヲ）レ馴（レ）二於己（ニ）一也（一二八・4）

内容理解 次の各問いにそれぞれ答えなさい。

1 「愛（シ）レ狙（ヲ）」（一二八・2）とあるが、「狙公」が猿たちをかわいがっていたことが分かる箇所を本文中から**二箇所**抜き出しなさい（訓点は不要）。

2 「狙公」が、「限二其食（ランノヲ）一」（一二八・4）とした理由を本文中から抜き出しなさい（訓点は不要）。

3 「恐（ルル）」（一二八・4）とあるが、何を「恐」れたのか。空欄にあてはまる語句を補って文を完成させなさい。

A　は、B　が C　ことを「恐」れた。

4 「皆起而怒（チテ）（ルル）。」（一二八・6）が、「皆伏而喜（シテ）（ブ）。」（一二八・7）へと変わった理由を説明しなさい。

5 「朝三暮四」寓話について、(a)「狙公」に主眼を置いた場合と、(b)「衆狙」に主眼を置いた場合とでは、その例えにどのような違いがあるか、説明しなさい。

(a)

(b)